

2022年6月16日

株式会社グリーンパワーインベストメント 御中

(仮称) 余呉南越前第一・第二ウィンドファーム発電事業

環境影響評価準備書に関する意見書

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

公益財団法人 日本自然保護協会

理事長 亀山 章

(仮称) 余呉南越前第一・第二ウィンドファーム発電事業(事業者:株式会社グリーンパワーインベストメント、第一事業:最大総出力 84,000kW・20 基、第二事業:最大総出力 79,800kW・19 基)は、当初は建設予定の 50 基のうち 38 基が保安林内に建設予定であったが、今回の環境影響評価準備書段階では 17 基に削減された。また、住環境面で懸念があった北西側のエリアを計画から除外し、特定植物群落の栃ノ木峠のブナ林への影響を配慮して、計画エリアの変更がされた。

一方で、本環境影響評価準備書は、以下に述べるように環境調査が不十分であるとともに、図表に多くの不備があることが指摘される。このような不十分な環境影響評価準備書では、本事業による環境影響を正しく評価することは不可能であり、再度の調査を行ったうえで、環境影響評価準備書の縦覧手続きをやり直すべきである。

1. 底生生物および魚類の調査地点数が少なすぎる

本事業は複数流域の尾根部の土地改変を行うことが計画されており、本事業による流域の生態系への影響が懸念される。しかし、本環境影響評価準備書作成のために行われた各河川の調査地点は 1～2 地点と極めて少ない。特に美土呂川は集水域内に 7 基もの風車建設が予定されているにも関わらず、日野川との合流付近の 1 地点(W3)のみの調査に留まっている。これでは底生生物や魚類の状態を十分に把握することはできない。各河川において 3～5 地点の調査を追加で行い評価すべきである。

2. 林冠木のサイズ調査の地点が少なすぎる

自然度の高いエリアで、林冠木のサイズ構造の調査を行った点は評価に値する。しかし、林冠木の調査を行ったのは、わずかに 1 箇所過ぎない。これでは調査をしたという事実を得るためのアリバイとして行ったと言わざるをえない。そのため、林冠木のサイズ構造の調査地点数を増やして再度調査を行うべきである。また各群落で行った植物社会学的な植生調査の地点も少な過ぎ、植物の組成の検討には不十分である。

3. 複数の図表の読み取りが困難である

10.1.4-759 など縦横比を大幅に歪めた読み取りが困難な図表が複数存在し、自然環境への影響を正しく解釈することは困難である。このような環境影響評価書の縦覧は、環境影響評価手続きを根幹から歪めるものであり、今後パブリックコメントを求める機会がないことを踏まえると、図表を作成し直したうえで、再度の環境影響評価準備書を公表し、パブリックコメントを求めるべきである。

4. 準備書の公開方法が誠実性を欠いている

準備書の閲覧は、環境影響評価法により定められているとは言え、縦覧期間が1～1.5ヶ月と短く、また、縦覧場所も限られている。インターネット上で閲覧は可能ではあるが、印刷やダウンロードができない。本書のように図表や調査内容に多数の問題がある場合でも、再度の確認を縦覧期間終了後に行うことはできない。

環境影響評価書は地域住民や利害関係者等が常時、容易に精査できることが、環境影響評価の信頼性を確保するものであり、地域との合意形成を図るうえでも不可欠である。そのため、閲覧可能期間に限らず、縦覧期間後も地域の図書館などで、環境影響評価の図書を常時閲覧可能にし、また、随時インターネットでの閲覧とダウンロード、印刷を可能にすべきである。

以上